

Junko Higasa

『女ノ水泳 Cordova』記

アンジェラスの祈りの数分前に多くの女たちが川岸に集まる、かなり高い岸壁の下に。男たちは誰もそのグループに参加する勇気はないだろう。アンジェラスの鐘が鳴るとすぐに辺りは暗くなるはずだった。鐘が鳴り終わると女たちは服を脱いで水中に入る。それから大声で高らかに笑ってはしゃぐ。高い岸壁に集まった人々は横目でチラリと見る程度だ。それでも紺青の流れに向かうぼんやりとした白いシルエットは詩的な心持にさせる；そして水浴するダイアナとニンフたちの姿を容易に想像させる、アクティオンの祝宴^①を畏れることなしに。私はある日、不信心な厄介者のクラブのメンバーと一緒に大聖堂の鐘突きに賄賂を渡して、正しい時刻の12分前にアンジェラスの鐘を鳴らせと云ったことがある。けれどその時間はまだ明るくて、グアダルキヴィル^②のニンフたちはためらったが、むしろ太陽よりもアンジェラスを信じて、恐れることなくいつもの通り水浴した。私はそこにいなかった。ある日、鐘突きは賄賂を取らなかった。日の光りから隔てられた夕暮れには、コルドバの可愛いグリセッタ（茸）から古びたオレンジの皮のような女性を見分けることは猫にしかできなかった。……：しかし、古代哲学者にどんな意見があったか聞いてみよう、女性の性に触れることについて。ある人が尋ねた。結婚は賢い男を愚かにするのか、愚かな男を賢くするのかと。アリストテレスは我々に助言した。大きい妻より小さい妻をもらいなさい。なぜなら常に小さい凶悪は大きい凶悪に勝るからだ。女はみんな例外なくよこしまで有難くないものだと思えなさい。別の人、世界中で偉大なる奇跡は何かと尋ねた。答えて曰く、貞淑な女性だ。一人がディオゲネスに妻をもらうのに最適な時期はいつかと判定を求めた。答えて曰く、若者にとってはまだ、老人では決してない。ピタゴラスが言った。3つの物一火・水・女性に悩まないこと。そしてシニク（皮肉）という名の者は世の中に嘘つきほど賢いものはないと考え、彼らは結婚を望むだろうと言った。独りでいるより二人の方が便利だからという理由で。同じ人間として肯定することがすべての凶悪から逃れる唯一の手段である、女性の意見から逃れて、我々の行動を管理されないための。古代哲人は若者を戒めた。もし彼らがどんな妻にもふさわしかったとしても、金持ちの婦人をもらってはいけない。なぜなら彼女が金持ちなら、妻になってからもどんなものにも満足しないからだ。しかし芸術家（巨匠）か僧侶になれるだろう、命令と叱咤と修正と制御の中で。他の哲学者が立派に着飾った婦人を比較した、牧草に覆われた肥しの山と。ソクラテスは誰でも企てられる無謀な計画だと注意した、女性の意思を管理しようとするのは。

問いかけた彼に私だったら何と言うか。男は女の何から彼自身を守るべきか、答えて言う、素早さから、無感覚から、更にそればかりでなく、女性が病気の時はそのよこしまに他の事が連結する。デモステネス側は、それはそうだ／大きな悩みだ、男は内心腹立たしい、娘を嫁にやると、暴力的なエリニュエス^③のように日夜夫を悩ませる。デモクラテスは美しい貞淑な女性は奇跡中の奇跡に数えた、榮譽ある古代ギリシャ人の地位であっても、なぜなら妖精を見つけることは困難だ。他の者が尋ねた。いつでも妻の管理外にすることができない男は誰か、答えて曰く、常に呪われた男；そして汝ら一般格言の何を実行するか、我々に巧みに取り入る悪い結婚の後に結婚すること、けれど男にも結婚するつもりがあるなら、ぐずぐずせずに行動したほうがよい、若

く幼い頃から始めて、余儀なく自然に忍耐強く行うこと。その上で自然と男の状態の変化に伴って女性とワインは前面に出てくる、だから災難の理由が際立つ。

ブルターク⁽⁴⁾は彼の結婚生活の格言の中で、何故男がしばしば良い妻を選ぶことに失敗するかという理由を断言している、彼の言うところによると、彼らの一員はとて小さいからだ。セネカ⁽⁵⁾の言うこの世界には特別な災難が2つある、妻と無知だ。マルクス・アウレリウス⁽⁶⁾は女性と恥じらいを比較した、なぜなら彼女たちを思い通りに良く保つために、彼らはいつも多少それを求めている：そしてプラウトゥス⁽⁷⁾は言う、女性は豪華に装って、またそのようによく見せようとする、なぜなら容姿の悪いものはすぐに彼らの求めるものから外されてしまうからだ、その時、着飾る人たちは美のために気立てのやさしさから遠のいてしまう。私の一部でそれは判決の保留を意味し、私の発言として後世の記憶に残る作家にさせる、男を罠にかけける微笑を顔に浮かべている魔性を持つ悪魔を肯定する者としての。ルフ広告の書簡の中でヴァレリウス⁽⁸⁾は女の裏切り作用について言及している、【友よ、あなたを不安な状態で長く損なわないように、テオプラストス⁽⁹⁾の黄金法則、あるいはイアーソンとメーディア⁽¹⁰⁾、女性には不可能なことを少々見つけるだろう。友よ、全能の神はあなたに言う、女性の偽りに騙されるべきではないと】わが友よ、少なくとも私は退屈な暮らしの長すぎる汝に提案するだろう、テオプラストスの黄金の本を読むか、あるいはイアーソンとメーディアを、汝は女性にとって不可能なことを少し発見するだろう：愛しい友よ、全能の神は汝に刻む／女性の企みに惑わされてはいけない。そのみならず、同じところで彼は言う、【誰が女性のおしゃべりに少しでも委ねるか、黙っていることができないだけの者に】誰が実のところ知らないことを疑わない女性を全面的に信頼することができようか？私は古代の父たちが彼らにどのような言い方をしたか話し忘れた。一人が言ったのは：【友情の敵である以外に女性には何があるか、etc.】友情の敵である以外の女性とは何か、平穏な痛みであり、必要な悪魔であり、自然な誘惑であり、災いの欲望であり、内面的危険であり、直接的損害であり、良い色の影を持つ悪魔に生まれついているもの。だからもし彼女を罪から遠くに引き出せば、苦しめられることはない。他の者が言った。【楽園の外で創られた男は対立する(不利だ)】(よく考えなさい、その男は楽園の外で、女は楽園の中で出来上がった。それによって我々は学ぶ、誰もが高貴な身分によって、あるいは彼の持ち物によって信用を勝ち得る訳ではない、けれど彼の見た目によっては勝ち得る。結局、より良い男は下位の場所で楽園なしに創られ、そして反対に、楽園という名の良い場所で創られた女はさらに悪くなる)他の者は別の意見を持っていた：【女性は如何に取るか、欺くか、奪うかを重んずる：男を自由にすることを愛し、いつも消耗させる】(女性は罠にかけけることを好む、自分のわがままで全く惑わす、彼女は汝を所有することを好む、汝がいることではなくて)他の作者は後から後から汝の振舞いについて書く：【妻の選択は無意味だ、etc.】妻を持ったことに選択の余地はない、しかし彼女が来るということは、我々は彼女に責任を持たなければならない。：もしうるさくても、もしバカでも、もし体が不自由でも、もし息が臭くても、あるいは彼女の持っている欠点が何であつても、我々は結婚するまで知らない。馬、牛、ロバ、あるいは犬、あるいは他のつまらない商品がどんなものかというのは最初の試練だ、そして買ったとき、人間の妻だけが以前見たとおりでとは思えない、少し飾っている、彼女が結婚する前は。【男性の悪徳はそれぞれの貪欲が動かす(タリーが言った)女性の一つの貪欲があらゆる悪徳を引っ張る：女性は確かに基の貪欲で全てを悪化させる】(男のそれぞれの欲望は各々の悪魔の種類によって生まれる、しかしある一つの作用だけが女をすべての邪悪に導く：貪欲がすべての女性を悪魔に傾ける基である)セネカはまた彼の格言の中で汝に言う：【あるいは愛、あるいは憎し

み、3番目はない、女性が泣くことを忘れる、嘘だ、etc.】愛する女あるいは憎む女、3番目はない：それは言っても嘘だ、女性が涙を流すことを忘れるようになれるというのは：2種類の涙が彼女たちの目にはいつもある、ひとつは真実の悲しみの涙、もうひとつは惑わす涙：女性は一人きりで黙って悪魔の計画を練る。

こうして著者が非難の中で悪口と共にまとめた彼女たちの邪悪さをあなたは参考にした：それゆえ私はより過激に彼らの移り気を力説する必要がないだろう、バッツ⁽¹¹⁾に似ている、彼は牝牛を獲得して、雄牛を失った：プラトン⁽¹²⁾のその復唱を守らず、女性を分別のあるものとして捉えるか、分別のない生き物として捉えるか疑い、また3つのことのために殊に自然に感謝を捧げた。第一の証拠として全く、その妖精は彼を女としてではなく男として作った。私はアリストテレス⁽¹³⁾のそれを忘れていた、誰かはあまりにも時を得た結婚の不便を主張して、特別な迷惑のようにこれを表現した、それは不必要な著者であり、何の役にも立たないどころか女性と共に世界を満たす。ホーマー⁽¹⁴⁾をすべて読み終わって、ユーノ⁽¹⁵⁾にもたらされる彼をほとんど見ることはできないだろう、騒々しく喧嘩してジュピターと調和しなかったことを除いては、それはその年代の人々には何でもなかった。それゆえいくつかの国で、結婚の日の花嫁はトゲのある花輪の付いた既婚婦人の冠をかぶり、そういうわけで彼女の夫となり、彼は厄介な楽しみを持つことを知るのである。マサージュ族はポンペイ⁽¹⁶⁾に言った、彼女たちは勝利と共に嘘をつく、けれどそれは週に一度だけ、なぜなら彼らは彼女たちが一日中ガミガミ言うのを聞かず、それを夜に引きずることはないからだ。

しかし私はどのように頭を使えばいいのだろうか、私の至らない筆で紙を費やして、彼女たちの不完全な醜さと歪んだ気難しさを描く力量は、彼女たちの頭にある干し草をどれだけ多く、男を陥れるために必要な罠をどれだけ多く見つけられるだろうか；何と多くの目、とても多い誘惑。私に何が言えるだろう？愛が様々な形を持っていたときは、彼らはもっと臆病だった、サテュロス⁽¹⁷⁾の姿に化けた誰かがアンティオペー⁽¹⁸⁾をおびき寄せた；、アルクメーネ⁽¹⁹⁾にヘラクレース⁽²⁰⁾を産ませたときは、アムピトリオン⁽²¹⁾の格好だった；ダナエ⁽²²⁾には黄金の雨に化けてやって来た；レーダ⁽²³⁾には白鳥に化けて；雌牛のようにイオ⁽²⁴⁾に；炎のようにアイギーナ⁽²⁵⁾に；羊飼いのようにムネーモシュネー⁽²⁶⁾に；蛇のようにプロセルピーナ⁽²⁷⁾に；雄牛のようにパーシパエ⁽²⁸⁾に；アポロに化けてニンフ、ノーナクリスに。

【注】

1. アクティオンの祝宴(the fate of Actaeon)=アクティオンが狩りで疲れて森の中で休んでいることを知らず、ダイアナは水浴してその姿を見られてしまう。
2. グアダルキヴィル(Guadalquivir)=スペイン・ポリビアの川。
3. エリニュエス(Erinyes=Fury)= 頭髪が蛇であった復讐の女神。
4. プルターク(Plutarch)=ギリシャの歴史家で『英雄』の著者。
5. セネカ(Seneca)=ストア派(ヘレニズム時代に成立した禁欲的思想)の哲学者。
6. マルクス・アウレリウス(Marcus Aurelius)=第16代ローマ皇帝。「哲人君主」の実現例とみなされる『自省録』の著者。
7. プラウトゥス(Plautus)=古代ローマの劇作家。彼の喜劇は後のラテン文学に影響を及ぼした。
8. ヴァレリウス(Valerius)=ローマ帝国の執政官。預言者。
9. テオプラストス(Theophrastus, Theophrasti) —アリストテレスの弟子。植物学者。人間の性格についての著述がある。
10. イアーソンとメーデア(Iasons Medea=Iasonis Medeam)=アフロディテに偽り

